自由民主党　渡辺光一

都市整備常任委員会 視察報告書

平成 30 年 10 月 31 日（水）～ 11 月 2 日（金）

【尾道市 ― サイクリングポートみなとオアシス尾道・みなとオアシス瀬戸田について】

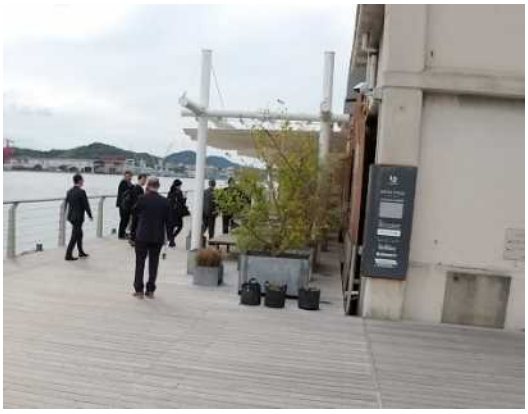
みなとオアシスとは、地域住民の交流や観光の振興を図ることを目的とし、みなとを核としたまちづくりを進めるため、住民参加による地域振興の取組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が登録したものをいい、地域住民、観光客、クルーズ旅客等が交流及び休憩できる機能を有していることや、地域の観光及び交通に関する情報の提供機能、更には災害支援機能や物販、飲食等の商業機能、そして、地域住民の交流や、観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するために必要な機能を有していることが求められる。

今回視察した尾道糸崎港は、瀬戸内海に面し、古くから海運物流が盛んであった。

今も定期便や渡船が行き交い、港町の風情が残っている。

近年では「しまなみ海道サイクリング」が好評で国内外から多くの人が集まっておりサイクリングのまちとしても地位を確立しつつある。

そうしたサイクリスト向けの複合施設として既存の県営 2 号上屋を再生した「ONOMICHI U2（オノミチ ユーツー）」は、建物の外側・内側共に趣のある造作となっている。



自転車で乗り付け、そのままチェックインし、客室まで自転車を持ち込めるホテルエリアの他、自転車メーカー専門店やレストラン、バー、カフェ、ベーカリー、ライフスタイルショップ、イベントスペースなどが併設されている。

ここでふと思い出したのは、本市のポートマーケットであった。

同じように既存施設を改装した施設でありながらも、発想一つでこうも違ってしまうものかとつくづく感じた。

ちなみにこの施設は広島県営の施設を尾道市が無償で借りて民間に委託している。
尾道市の担当職員が力を入れて説明していたのは景観保全のための取組みであった。
建物の高さ制限や、派手な看板を徹底して排除し、街並みの景観を損なわないよう統一感を持たせた仕上がりとなっている。
そこに立地する企業も、自社のイメージカラーを変更して街に協力している。
住民からの反発もあったのでは？との問いに対し「先に住民側から景観を守るよう要望があったのだ」との回答であった。
尾道の歴史や伝統を守り、それも残していくことが街の個性となって今も息づいている。
また個人宅でサイクリストにトイレや休憩場所を提供する「サイクルオアシス」を設置していたり、宿泊につながるよう、夜のイベントとして桟橋をライトアップする「ぼんぼり祭り」を行ったり、自転車に優しい街として舗装も滑りにくいものを採用するなど、細やかな配慮や工夫が賑わいの創出を目指し、観光客を迎え入れるため、街全体が結束し、本気で取り組んでいる様子がうかがえた。
横須賀市は 7 月に国土交通省から久里浜港が、このみなとオアシスとして登録されているが、尾道と比較すると前途多難といった印象である。
賑わい拠点は観光客だけに頼っていたらオフシーズンや平日は集客が見込めず、地元住民が日常的に足を運ぶ場所でなければならない。
最初は良くても継続して足を運ばせるには、そこに行く理由や強烈な魅力が必要である。
現状、久里浜港は駅から遠く、接道は狭く、駐車スペースも確保が難しそうだ。
尾道の地形だけを見れば、対岸が近く、渡船や定期便が行き交う穏やかな港で、久里浜よりは浦賀の港が非常に近く、おそらくベストな選択となりそうである。
いずれにしても、三方を海に囲まれたまち・横須賀は海洋都市として積極的に港を活用し、みなとオアシスとしての取組みを進める必要があると感じた。

【福山市 ― 道路不具合通報アプリ「パ撮（と）ローズ」について】

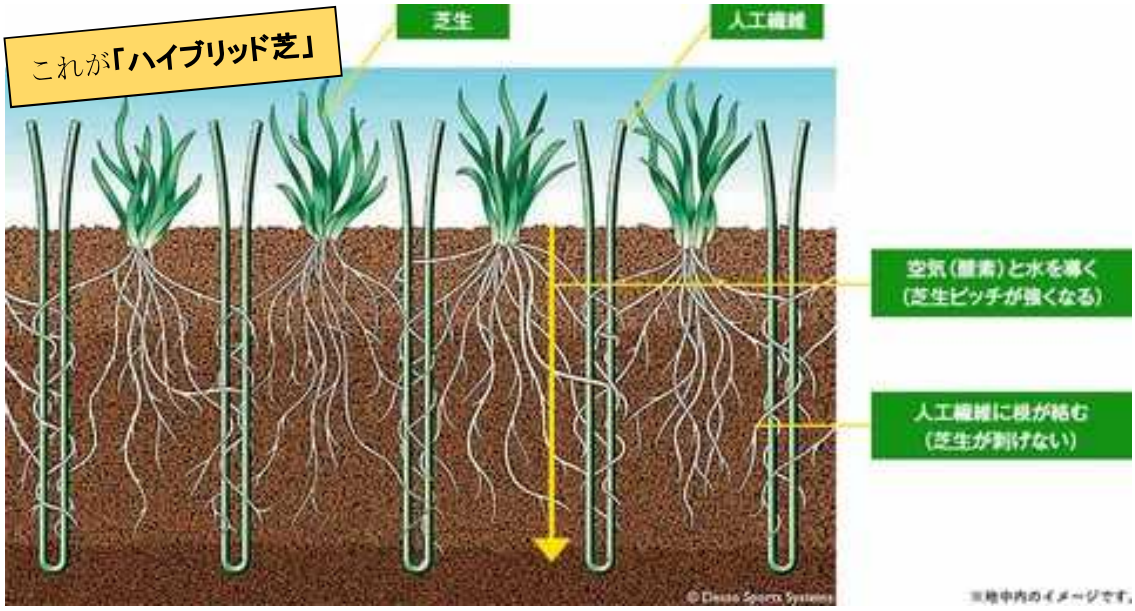
福山市では、路面の陥没やガードレールの破損、漏水など、道路と上下水道の異常についての的確な通報を担当部署で受けるスマートフォン用のアプリケーションを、2018 年 4 月から導入した。
アプリの導入経費は 182 万円で年間経費は 220 万円となっている。
通報に画像と位置情報が添付されるこのアプリは、電話等では説明が難しかった損傷場所や状況も、スマートフォンのＧＰＳ機能や写真を使うことで的確に知らせることができ、市は補修や通行規制などの迅速な対応ができる。
市民がこのアプリをダウンロードし、気付いた異常を撮影し、メールで通報してもらうシステムとなっている。
担当部署にはパトランプが設置され、メール受信の際にはランプが派手に回転しながら点灯するので、見逃すことはないとの事である。

市民はメールアドレスとユーザー名（本名でなくニックネームでも可）を登録するだけで、実際の通報は画面表示に従って情報を寄せることが出来る。
内容は自由な記入欄を設けず、選択式にすることで対応可能な項目を限定し、簡略化している。
効果としては、写真により損傷状況の詳細な把握できることで、応急対応の的確な事前準備が可能となり、現場の正確な位置をパソコン上で確認できる。また手軽に通報できるため、広く多くの情報が寄せられている等、一定の効果があると感じているとのことだ。
しかし、今年の 4 月に開始したばかりで、尚且つ 7 月の豪雨災害と重なった為、詳細なデータが得られていないところは残念であった。
福山市では、道路や河川、水路などの適正な維持管理のため、地域住民と市との連絡・調整を図る『土木常設員』なる職務を町内会の推薦に基づき 280 名、委嘱しているという。
土木事業に関する要望については、地域住民の総意となるよう土木常設員と連携を図る中で対応することとしているそうである。
我々も初めて聞く『土木常設員』という役職に関心が高まった。
地域住民から道路改修相談を受け、市に対して申し入れをする役割を担い、例えば、境界確認申請や道路・水路の効用廃止、道路占用許可申請、道路工事施工承認申請など、土木常設員の同意・承諾が必要となるそうで、実際にかなり権限を持っているようであり、同時にかなりの労力を要し、責任も重いと感じる。
報酬は年額で 43,800 円、プラス立ち合い手当額（一回につき 1,000 円）だそうである。
なかなかなり手を探すのも大変そうな気がするが、もしかすると名誉職なのか？
今回の「パ撮ローズ」の導入により、更にスピードアップ、効率アップが図られ、土木常設員をフォローする正義の味方となるのか、あるいは土木常設員の存在を脅かすものになるのかはわからないが、時代の流れを感じた。

【神戸市 ― ヴィッセル神戸練習場　いぶきの森球技場について】

横須賀市はこの度「横浜Ｆ・マリノス」の練習拠点を誘致することに成功した。
練習場の整備費は市が負担し、マリノスに貸すことになり、ほぼ同様の形式をとるのが神戸市である。
神戸市が造成した産業団地エリア内に、天然芝グラウンド 2 面とクラブハウスを整備し、平成 16 年から 18 年にかけて今のいぶきの森球技場を整備し移転した。
整備費は 6 億 5800 万円である。
この時は住宅開発が元々あった為、国の補助金を取ることを検討していなかったという。
横須賀市の場合、ここは抜かりなく国の補助金メニューを正確に把握しておく必要があると改めて感じた。おそらく対象となると思われる。

日常的な維持管理は楽天ヴィッセル神戸㈱が行っており、一般開放に伴う経費を市が負担しているとのことである。
グラウンドはハイブリッド芝２面、人工芝１面を有しているが、このハイブリッド芝とは『天然芝に人工芝を組み合わせた芝』を指すそうで、天然芝の根元を人工芝で補強する事で芝が抜けにくく、透水・排水がしやすくなるといったメリットが生まれ、芝の耐久性が上がるという仕組みだそうである。



それによって、
プレーの質の向上、安全性の向上、張り替え機会の減少に伴う維持費減、稼働率 UP による増収、といった効果が見込めるとのこと。
ただし、デメリットもあり、それは日本の気候に合うかという点であろう。
ハイブリッド芝を多く導入している欧州は、寒冷地型の天然芝単体で事足りる為に導入と管理が比較的容易とされている。
しかし日本の夏は暑く、冬は寒い国であり、説明でも日当たりと風通しなど、育成上の課題に触れていた。
横須賀市においてもハイブリッド芝を検討するのであれば、育成上の注意点を十分研究する必要があると感じる。